

- ◆ **学校名** 羽曳野市立峰塚中学校, 松原市立松原中学校, 松原市立松原第五中学校, 富田林市立第三中学校
- ◆ **主題名** 言葉の向こうに **道徳の内容** B－相互理解、寛容
- ◆ **ねらい** それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や捉え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。

◎ **中心的な発問**

画面から目を離すと椅子の背にもたれて考えたとありますが、主人公はどんなことを考えたのでしょうか。

◆ **本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットでのやりとりについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンや携帯でブログを見たり、ツイッターをしたりしている人はいますか？</li> <li>・ 一日どれくらいの時間？</li> <li>・ 時間が長いと、親に言われたことはありますか？</li> </ul>	<p>資料への方向付けをする。</p> <p>質問に気軽に答えやすい雰囲気をつくる。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を読む</li> <li>・ 流れをつかむ</li> <li>・ 文章を読み取って簡単な質問に答える</li> <li>・ A選手のファンサイトに悪口を書き込まれた加奈子の気持ちを理解する</li> <li>・ ずっと待たされている母の気持ちを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主人公は誰でしょう？ 加奈子</li> <li>・ 何のスポーツで誰のファンでしょう？ サッカーのA選手のファン</li> <li>・ 何のサイトにアクセスしたのでしょうか？ A選手のファンサイト</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○加奈子はどんな気持ち？</p> <p><b>嬉しい</b></p> <p>遠くの誰かが同じ感動を味わってる 不思議</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そんな中ある事件が・・・ ファンサイトにAの悪口</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○加奈子はどんな気持ち？</p> <p><b>怒りでいっぱい</b></p> <p>胸がドキッとした 顔が火照ってきた 絶対負けられない</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母の怒った声が・・・なぜ？ 食事をずっと待っている</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○食事の時、母親になんと言われた？</p> <p>ほんとかどうか目を見ればわかるのよ</p> </div>	<p>資料を範読する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>集中して資料をよんでいるか。</p> </div> <p>流れをつかませる程度にとどめておく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>加奈子の高揚した気持ちを理解しているか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ファンサイトに悪口を書かれ、怒りでいっぱいになる加奈子の気持ちの変化を理解しているか。</p> </div> <p>食事を用意してくれている母に対して、パソコンに夢中になって、顔も見ずに受け答えしている様子をおさえる。</p> <p>黒板に貼る。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>・流れをつかむ</p> <p>・仲間と思っていたファンに批判された加奈子の気持ちを把握する</p> <p>◎加奈子の気持ちや考えたことを推察する。</p>	<p>・食後、どんなことが起こりましたか？ 加奈子が他のファンから批判される</p> <p><b>○他のファンに、どんなふうに言われた？</b></p> <p>ファンとして恥ずかしい 同じレベルで争わないで 中傷しあったらキリがないよ 言葉の向こうにいる人々の顔を 思い浮かべてみて</p> <p><b>○加奈子はどんな気持ちになった？</b></p> <p><b>真っ暗な世界に一人突き落とされたような気持ち</b></p> <p>味方だと思っていたのに なんで私が非難されないといけないの</p> <p><b>○画面から目を離した加奈子は、 どんなことを考えたでしょう。</b></p> <p>相手の事を考えていなかった。 自分の言いたいことばかりを言っていた。 言い過ぎたな。 お母さんにも悪いことをしたな。 ネットも現実の世界もおなじだ。 自分の周り人のことを考えないと</p> <p>・みなさんが、考えてくれたようなことを加奈子は、考えていたんですね。</p> <p>・最後に加奈子はお母さんに、なんと言ったのでしょうか？</p> <p><b>すごいこと発見しちゃった!!</b></p> <p>加奈子はこの後、ファンサイトにどんなコメントを書くでしょうか。</p>	<p>加奈子が批判される流れをおさえる。</p> <p>他のファンの発言を確認する。</p> <p>板書する。</p> <p>黒板に貼る。</p> <p>仲間と思っていたファンに批判された加奈子の気持ちを理解しているか。</p> <p>黒板に貼る。</p> <p>加奈子が、考えたことを生徒の意見を通して深める。</p> <p>・インターネット上だけでなく、日常の人間関係に目を向けているか。 ・人と言葉を交わす時に相手のことを考えられているか。</p> <p>・意見がインターネット上のことにだけにならないように配慮する。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末</p>	<p>・ワークシートに今日の感想を書く。</p>	<p>・ネット上でも、友達でも家族でも遠くにいても、知らない人でも、人と言葉を交わす時、あなた方は何を大切にしますか？</p>

【評価】相手の気持ちや立場に立って考えることの大切さに気づいているか。

## ◆研究のまとめ

### ○授業実践について、チームとしてのまとめ

- ・生徒の意見は全て板書をするよよい。
- ・発問に対して、その答えを教材から探し出そうとする生徒がいる→読み終えたら、教科書を閉じさせる。
- ・導入は盛り上がるが、発問が進むにつれ、発言者が固定化してくる。
- ・グループを使つての討議や、隣同士で意見を引き出す時間があまり取ることができなかった。
- ・評価を意識して授業を行うことで、ねらいが明確になり授業者は授業がしやすかったが、こんな意見がほしいという指導者の欲が出てしまい、誘導的な流れになってしまった。
- ・ワークシートから、こちらが想定したよりも、しっかりと感じ取っており、授業中には発言できなかった生徒の意見も確認することができた。
- ・発言と共にワークシートに書かれている考えを、評価の要素にすることは重要である。
- ・意見を深めたり、広めたりするには1時間では足りなかった。
- ・今回の学習から、日常の人間関係に目を向けさせるところまでいけたか。

### ○道徳の評価についての提言

- 読み物教材では、内容を理解させること。
- 発問では、生徒から聞き出すことをメインに考える。
  - ・生徒と教師の関係
  - ・両極端の意見に対する反応
  - ・担任や授業者によってコメントに差が出る。
    - 評価をするという場面でズレが生じてしまう。
- 道徳の授業で考えたことを自分の日常に置き換えて考える。
  - ・授業内だけでなく、日常生活や身近なことで考えられるようにしていく。

## 【各校での実践の記録】

### ◆実施学年（1年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

「言葉の向こうに」

＜中心発問の場合＞

- ・拒否型・・・「私は悪くない」「むかつく」「裏切り者」「自分だけが悪いんじゃない」「悔しい」  
(10%) 「言い返したい」「やり返す方法がないのか」
- ・逃避型・・・「この画面を見たくない」「サイトから抜きたい」「味方はもういないの？」  
(絶望型) 「人は信じられない」  
(20%)
- ・不安型・・・「相手はどんな気持ちか」「ファンサイトって何？」「どうしたらいいの？」  
(5%)
- ・悟り型・・・「自分がやっていたことに意味がない」「人の気持ちを考えられなかった」  
(65%) 「取り返しの付かないことをした」「いちいちつかかかるともバカバカしい」  
「中傷にいちいち言い返してしまった自分がはずかしい」  
「自分が書いたコメントが周りにどれだけ迷惑をかけているか」  
「字面だけにとらわれ、人々の顔を思い浮かべられなかった」  
「コミュニケーションをしているつもりだったが、本当は全然違うことをしていた」  
「心の中で思うのは自由だけど、そのままストレートにわざわざ書き込んでアップする必要はない」  
「人はみんなそれぞれちがう考えを持っている。だけど中傷しあわなくても良かった」

＜次に、気づきから行動にどのように移せるのかを見るための発問＞

- ・拒否型 → この場を収束するために一旦折れる。  
「中傷に乗ってしまったことはいけないのですが、私はまだ怒っています」
- ・逃避型 → コメントはやめる。しばらくファンサイトから離れる。
- ・不安型 →
- ・悟り型 → 気づかせてくれた人への感謝。気分を害した人への謝罪。  
よりよいファンサイトをつくっていく反省と協力、呼びかけ。

＜本校のネットやSNSの課題に対しての発問＞

- ・拒否型 → しない・スタンプ・無視する
- ・逃避型 →
- ・不安型 →
- ・悟り型 → 「相手のことを考える」「一つ一つの言葉に気をつける」  
「送信する前にもう一度見る」「直接会って話す」  
「いろんな考えの人がいることをわかっておく」  
「相手の表情が見えないと、冗談が冗談でなくなるということ」

## ○成果と課題

・課題解決方法の中で「ネットや SNS でのコミュニケーションで難しいところは」という発問に対して、「スタンプ」と答えた子どもが予想以上に多かった。つまりこの世界から子どもたちは離れられないという現実がわかった。コミュニケーションを構築していく重要性について理解させるには、日々の学校生活の中で、いろんな考えに人がいることに気づかせるこまめな取り組みが必要である。合わせて五感で感じる「人との距離感」や「人間関係のいろいろな解決方法」を立ち止まって考えていく必要がある。子どもの使うネットや SNS のスピードに対抗するには、学校での集団生活の中での「集団での達成感」「自己有用感」を子どもたちが実感できる場面を、意図的に作ることなど考えていかなければいけない

・この教材は1年生にはやや難しかった。例えば「ファンサイト」などの言葉を知らない子どもが多かった。また、1時間では足らなかった。2時間あれば、もっと子どもたちの考えを知り、深めることもできたという教師側の感想もあった。これは教師が「手応え」を感じた結果の感想だと捉えている

・今回校区の小学校にも、この学習の公開授業を呼びかけ、4つの小学校の管理職と「道徳」担当の教諭が授業を参観した。(以下が感想文)

「先生と生徒との関係も良好で、信頼関係もしっかりできているからこそ、充実した授業ができていたと思う。」

「普段の授業や学校生活での担任や学年集団の的確な指導ができていて、今日の授業で見ることができた」

「小学校と中学校の文化の違いかも知れませんが、先生の発問に、生徒が主体的に発言する場面が少ないと感じた」

「各クラスそれぞれ特徴のある授業であった」

「生徒の意見をうまく引き出そうと工夫されており、自分自身のこととして、みんな考えていたのではないのでしょうか」

「生徒には言葉の重みやコミュニケーション手段について考える、良い機会になったのではないのでしょうか」

「グループを使っただけで、討議や意見を引き出す時間があまり取れなかったようですが、今後はこのあたりのところをどう活用されるのか楽しみです」

・「道徳の読み物教材の内容について」

2年生の教科の単元テストの裏に、今回の読み物教材の途中まで印刷したものを渡した。各クラス数名が、「この続きはありますか」と言ってきた。

## ◆実施学年（2年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

##### ○中心発問の場面の発言の様子や内容から

・単に「インターネットでの出来事」としてとらえる生徒の発言はほとんどなかった。  
「相手のことをもっと考えたほうが良かった。」や「言われる側の立場を考えているべきだった。」など、この資料のねらいにあった発言が多かった。

生徒たちが、考えたり思うことは頭にはあっても、なかなかその考えをまとめて声にだして発表することは難しいと感じたので、板書をもう一度確認する支援をおこなった。

##### ○ワークシートの場面の記述から

・「人の考えは様々だから“みんなこんなことを考えているんだな”程度にとらえて、いちいち反応をするのはやめようと思った。」や「世の中いろいろな人がいて、考え方がみんな違う。自分にとっての正しさは、絶対に人と一緒じゃないことが分かった。」という記述から、自分だけが正しいわけではないという考えを深めた生徒もいた。

#### ○成果と課題

・ワークシートを読んでいると、こちらが考えていたよりしっかりと感じたことなどをかけている生徒がおり、また、授業中には発言できなかった生徒の意見も確認できるため、発言と共にワークシートでの感想を評価の要素にすることが重要であると感じた。

・評価を意識して授業を行うことで、ねらいが明確になり指導者は授業しやすいが、そのことでこんな発言がほしいという欲が出てしまい、誘導してしまっていたのではないかと反省した。

A. 単にネット上の事にとらえず、謙虚になれた感想 → 6名 / 33名中

B. ネット上の事にとらえ、言葉に気を付けようと考えた感想 → 22名 / 33名中

C. その他（欠席者など） 5名 / 33名中

感想（ワークシート）でBのネット上の出来事としてとらえた人数が多かったのは、後段に十分な時間をとれず、それらの意見を広げられなかったと反省している。

## ◆実施学年（1年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・導入では、パソコンや携帯を使っている生徒が多く、身近な題材としてとらえ、興味関心の高さから発言も多く見られた。  
→他の生徒の発言もしっかり聞いている。
- ・資料を読む場面では、資料を見ながら内容を理解しようという様子が見られた。  
言葉の意味が分からない生徒もいた。  
→すべて読み終わってから、補足説明。
- ・「真っ暗な世界に一人突き落とされたような気持ち」がどういう気持ちなのか、想像できない生徒も多かった。  
→資料から読み取れることをもう一度説明する。
- ・『加奈子はこの後どんなコメントを書いたでしょう』という発問には、謝るという意見も多かったが、コメントしないやパソコンの電源を切るなどの意見も出た。
- ・インターネット上だけでなく、日常の人間関係に目を向けている生徒は少なかった。  
自分のことに置き換えて考えられる生徒は少なかった。

#### ○成果と課題

- ・導入では、身近に感じた生徒が多く、興味を持っていた。
- ・資料の読み合わせは、聞いているが、内容は理解できていない生徒が多かった。
- ・資料は、一気に読むのではなく、場面で区切ったほうがよかったかもしれない。
- ・発問が難しく、答えられる生徒が少ないものもあった。（中心発問）
- ・加奈子になって気持ちを考えるという点で、難しいと感じる生徒もいた。

## ◆実施学年（1年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

##### ○中心発問の場面の発言や記述の内容から

「なんで感情的に言ってしまったんだろう」や「相手を傷つけてしまったのでは」などの発言が多かった。相手のことを考えて発言すること、その言葉で見た人、聞いた人がどう感じるかはさまざまということをもとに深めていく必要がある。

そこで追加発問として「加奈子はこの後、ファンサイトにどんなコメントを書くでしょう」と問いかけ、ワークシートに記述させると「ほかの人のことを考えずにひどいことを言ってごめんなさい」や「大切なことに気づかせてくれてありがとう」などの記述が多く見られた。実際に加奈子の立場としてその後の行動をしてもらうことで、より深く加奈子の心情に近づけたのではと思う。

##### ○ふりかえりの場面での記述から

「顔を見ることのないコミュニケーションは難しい」「掲示板などでは誹謗中傷する人がよくいるから、無視しようと思う」「相手の気持ちを考えてメールを送れば楽しくやりとりができると思う」「相手に流されないことが大事」「言葉だけのコミュニケーションは怖い」など、この物語の中だけでの感想が多かった。

自らの実生活や経験に結び付けて考える意見が少なかった。学級通信などで意見の共有をすることで、自らの生活にも結び付けられるということを紹介した。

#### ○成果と課題

##### 【成果】

評価を位置づけたことで指導者側がある程度の方針を持って授業が展開できたため、授業としての深まりはできたと思う。

##### 【課題】

方針を持って授業することで、発問や問いかけが誘導的になってしまう危険性がある。また、子ども個人の環境や成長状況から、一概に指導者の設けた方針での評価が正しい評価とは言えない。現状、長期的な成長を見通す手段がない。